

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・森 和雄

2018/12

アメリカと暮らす

林 千恵美さん

林さんは、脳性麻痺で普段車椅子を利用しながら、ご家族と一緒に生活をしています。今年の春から介助犬のアメリカと暮らしはじめ、家族が増えた。アメリカはボール遊びの好きな5才の女の子。

もともと犬が大好きな林さん。電車内や公共施設で車椅子を利用しての方が介助犬とともにいる姿を見て「私のそばにもいてほしいなあ」という憧れの気持ちを抱いていた。昨年の夏、近所のお祭りで公益財団法人日本補助犬協会がデモンストレーションを行っているのを見て思わず声をかけた。担当の方から「協会へ電話をしてみたら？」と言われ、早速連絡を取ると、とんとん拍子に話が進み、協会で面接。その後、協会からアメリカを紹介された。林さん

も指示の出し方を学び、自宅でのお泊り訓練を終えて、アメリカは晴れて林さんの家族となった。

林さんは「いつも私を気にかけてくれるアメリカの気持ちが好き。一人じゃない安心感がある。アメリカが来てから家の中が暖かくなった。」とびきりの笑顔で語ってくれた。

二人で初めての場所に出かけるとき、林さんは出先に介助犬とともに行くことを伝える。時には「困ります」と断られることもありますが、社会の中でまだまだ理解が行き届かない面がある。少しずつ理解が広がると嬉しいと林さんは語った。

アメリカは、林さんが朝起きてこない、ベッドの周りを行ったり来たりして、林さんを起こしてくれる。「アメリカのおかげで早寝早起きになった」と林さんは笑う。林さんが洗濯物を落とすとアメリカが拾ってくれます。最近では、以心伝心、指示をしなくても林さん

のしてほしいことをわかってくれるという。お出かけもいつも一緒。これまで、コンサートや映画、レストランにも一緒に出かけた。

アメリカを迎えるにあたり、最初は排せつの片付けなど不安もあったそう。でも、今は大丈夫。一緒に過ごすうちに不安は全くなかった。

もともと行動的な林さん。アメリカが来たことで行動範囲は変わらないものの、アメリカが会話のきっかけとなり、いろいろな人との交流が増え、生活が豊かになったこと。



林さんとアメリカ
通所先の「障害者自立生活センターIL・NEXT」にて

介助犬について
介助犬は、自由参加のサ
ある人の日常生活自立活動
に資するものとして、社会
障害者補助犬法に基づき
訓練・認定された犬です。
に基づく表示をつけていま
す。(厚生労働省ホームページより)

今さらだが「総合支援法」について考えている。確かに横浜の状況をみれば、サービスは一定程度充実したかもしれない。しかし障害福祉はまさにサービスになつてしまったのではないかと。障害当事者はサービスの受け手になつてしまつたのではないかと。事業者には利用者の100%安心安全が求められている。状況に関わりなく事故があれば全て事業者の責任になる。健康者は生活の中で100%安心安全を保障されることがあるだろうか。常に安全性と自分の欲求を秤にかけてどちらを選ぶかを判断しているだろうか。それが主体的な生活というものではないか。だとすれば私たちは「総合支援法」の中で主体者として位置づけられていないのではないかと。「計画相談支援」の導入は、それを決定的にしてしまつたと思う。福祉制度が単なるサービスになつてしまつて良いのだろうか。

(横浜市)の障害者施策を
考える連絡会
渋谷 治(白)

みどり福祉ホーム ～みんなで十日市場のまちを歩こう～ 十日市場ハロウィンDAY

「十日市場施設連携」 でイベント開催

穏やかな秋晴れのもと、ハロウィン衣装の親子連れが次々とみどり福祉ホームにやってきた。みどり福祉ホームのメンバーや職員も仮装をして「ハッピーハロウィン！」と元気にお出迎え。十月三十一日、『十日市場ハロウィンDAY』が開催された。

このイベントは、緑区十日市場エリアにある六施設（みどり福祉ホーム・十日市場地域ケアプラザ・十日市場地区センター・緑区地域子育て支援拠点いっぽ・緑図書館・老人福祉センター緑ほのぼの荘）が「十日市場施設連携」として企画したもので、昨年からの開催している。今年はその六施設にスーパーとマ

ンションのモデルルームも加わった。

イベントの参加者はスタンプリリー形式で各施設を歩いてまわる。昨年は三五〇名もの参加があった。今年も五〇〇名の参加を見込み、スタンプリリーの台紙を用意したが、終了予定時間の三十分前には全て配布したという。

みどり福祉ホームでは、参加者がメンバーとじゃんけんゲームを行った。小さなお子さんを連れたファミリー



から年配の方まで幅広い世代の方が各施設との交流を楽しんだ。きつかけは

様々な会合での顔合せで、「来年は緑区制五十周年でもあり、近隣にある施設が連携して、何か取り組みはできないか」と話していたことが、このイベントのきっかけである。その後、平成二十九年五月に「十日市場施設連携」を自主的にスタートさせ、「十日市場地区の活性化」と「イベントを通じて各施設を知ってもらうこと」を目的に、「ハロウィンイベント」を実施することとなった。

住みやすい街づくり

現在では、横浜市建築局住宅再生課「環境未来都市計画」持続可能な住宅地モデルプロジェクト「も」も「施設連携」に参加。このプロジェクトは地域の活性化や魅力向上のために情報発信などを行っ



ていくもの。

「施設連携」の定期的な会議ではイベント企画の他、災害時の対応についても情報共有するようになった。

イベント参加者からは「今年初めて参加した。地域にこのような施設があることを知らなかった。友人にも教えた」という声も聞かれた。

みどり福祉ホーム職員鈴木さんは「このハロウィンイベントをきっかけに、地域の方に施設のことをもっと知ってもらい、そしてこの街がもっと住みやすくなれば」とこれからの期待を語る。

せや福祉ホームの おもちゃ文庫紹介

子どもたちの笑い声で賑やかなせや福祉ホームのおもちゃ文庫「おんぷ」。

毎週、水・木・金の午前中に開所している。

「地域訓練会の子どもたちはもちろん、もっと多くの子どもやその家族の方々と接点をもてればと思い、おもちゃ文庫を始めました。

嬉しいことに『おんぷ』を始めてから、活動ホームのお祭りに来てくれる子どもたちがとても増えていきます」と語るのは津田所長。

「おんぷ」の特徴は、「横浜市子育て支援者事業（※）」の会場にもなっていること。毎週木曜日の午前十時から十二時には、子育て支援者（地域の先輩お母さん）がいて、子どもを遊ばせる他、子育て

中の方の様々な不安や、悩みを聞いてもらうこともできるそうだ。

せや福祉ホームがおもちゃ文庫を始めて七年目。この九月には、余暇活動やおもちゃ文庫など、子どもの支援をさらに拡充させるための分室「ゆいまる」も活動ホームの近所に開設した。

地域の拠り所として、一歩ずつ前進だ。

※横浜市子育て支援者事業・身近な施設（地区センターや地域ケアプラザなど）で、子育て支援者が、主に未就学児の養育者の交流支援や子育ての相談などを行う事業。平成三十年四月現在、瀬谷区内で六カ所実施。



【おもちゃ文庫の会場】
水・木 10～12 せや福祉ホーム
金 10～12 ゆいまる

伝えたい！地域での暮らしのこと 「当事者発・地域啓発支援事業」の取組

障害者支援センターでは、昨年度から「当事者発・地域啓発支援事業」を実施している。この事業は、各区社会福祉協議会との協働により、住民の方々と構成する地域福祉関係団体などに対して、障害者や家族が講師となり、地域生活について伝えていく取組。今回は九月十五日に青葉区すすき野地区民生委員児童委員協議会（以下「民児協」）が主催した研修会を紹介する。

「暮らしについて」
講師となったのは、NPO法人えだ福祉ホームが運営するグループホーム「ぼけっと」で生活する齋藤朋也さんと、ホームで管理者を務める松岡直樹さん。

冒頭、松岡さんがスライドでグループホームでの暮らしを紹介。日中の通所先から帰宅し、入浴したり、夕食を取ったり、食後は各自が好きなことをして過ごされる様子が映し出された。「入居者で女子会もします」「毎晩晩酌でビールを飲む方もいます」という話には、皆さんのほほえみも。



お話をされる松岡さん(左)と齋藤さん(右)

街の中で困ること
グループホームで生活を始めて二十年の齋藤さん。一人で外出もされる。そこで、街に出かけた時に「こんなお手伝いをしてもらえたら」といったエピソードが紹介された。

「コンビニ・スーパーなどでの会計の時に、お金がうまく取り出せないの手伝ってほしい」「高い所の商品が届かないので取ってほしい」など。「特にコンビニで扉の中に陳列されている飲み物は、車いすの方にとっては車いすが邪魔をして取り出しにくい」という

人で行動されている方ならほとんどが大丈夫なので声をかけてみてほしい」と松岡さん。

参加者の声から
参加者からは「お手伝いしましょうか」と声をかけたらしいのですか」との質問があった。「中には声をかけられないが、車いすで一

NPO法人もくもく (神奈川県)

北村 一枝さん
安藤 君枝さん

NPO法人もくもくが運営する地域活動支援センターもくもく。同じ町内に第一と第二があり、合同で活動するプログラムも多い。その活動のひとつが年に二回実施しているフラワーアレンジメント。講師となるのは、ボランティアの北村さんと安藤さん。同じ教室に所属するお花のインストラクター。先にボランティアをしていた北村さんから誘われて安藤さんもボランティアを始めた。北村さんは二十年以上、安藤さんは十年近くが経つ。プログラムの時間、まずは北村さんがお手本花を活け、続いて利用者のみなさんが思い

北村さん(左)と安藤さん(右)

思いに活かしていく。おふたりとも「日頃、みなさんよく働いていて、感心します。そんな中、お花の時間を楽しみにしてください、うれしい。みなさん自信を持って取り組んでいます」と話される。利用者さんからは「きれいなお花にふれられて、楽しい！」との声。職員さんは「みなさん、おふたりが来ることをとても楽しみにしています。きれいに活けたお花は持ち帰るので、ご家族からも好評です」とのこと。忙しい日々の仕事の合間、北村さんと安藤さんの協力を得て過ごす、色とりどりの豊かな時間。メンバーにとって、とても大切な時間になっている。

よこはま障害者共同生活総合センター 受注センター わーくる通信



今回は、よこはま障害者共同受注総合センター（受注センター わーくる）の研修・出店の取り組みを紹介する。

○三十年代第一回登録事業所向け研修会

受注センターわーくる連絡会で出された「施設長や職員の意識改革に結びつく研修会を」という意見を受け、十月十日、研修会一受注や工賃アップにつながる意識改革、業務改善」を開催、五十六名の参加者があった。講師は、株式会社恋する豚研究所代表取締役の飯田大輔氏。

同氏が理事長を務める社会福祉法人の就労継続支援A型事業所で製造した精肉・ハム・ソーセージを「恋豚」ブランドとしてデパート・スーパーで販売。直営レストランの運営も行っている。「商品にストーリーを作る」「地元のものを使う」「デザインの重要性」

「どんな人に売りたいかを設定する」など、商品販売戦略を具体例を交えながら伝えていただいた。

また飯田氏は、「大切なのは、工賃よりも、障害のある方が社会に出ることではないか」という視点。そのためには地域を俯瞰して見て、何が求められているかを知ること」とコミニティとのつながりを強調。高齢化で手つかずとなった栗林を手入れし、収穫した栗で高齢者食事を開催する取組例は、障害者事業所が地域で担える役割や可能性を示唆したものであった。

参加者からは、「障害者支援という狭い視点で考えていたが、社会全体に目を向けることが大切と知った」「熱い心が冷めないうちに何をすべきか見えた気がする」などの感想があり、意識を変えざるを得なくなったようだ。

○企業などの協力で、自主製品販売会を開催

ソニー生命保険(株)横浜ライフプランナーセンター（西区）に勤務する方々の所属するJAIFA（ジェイファ）ソニー神奈川様は、障害者とふれあうことで障害者に対する理解を深めたい、との思いから、総会の際に障害者事業所の販売会を実施している。そこで、「横浜市内の事業所もぜひ」という依頼を受け、ゆめづくり三番館、エヌ・クラップ（共に西区）を紹介し、十月十一日に出店した。

販売会が始まると、売場には多くの人だかり。パン・焼菓子・レトルトカレー等が好評の内に完売した。

出店した事業所は、「係員の方が呼び込みを手伝ってくださり、とてもよく売れて感激した」「次回は他にないアイテムを揃え、より多く販売したい」と話していた。

次回、来春には、手工芸品の事業所にも拡大するよう、相談していくこととなった。



大山ねずの命神示教会様での出店

【問合せ先】

よこはま障害者共同受注総合センターわーくる
☎306-9910
ホームページアドレス
<http://www.yokohama-juchuu.jp>

また、大山ねずの命神示教会様（南区）からは、地域に貢献したいとのことで、全国からの信者参拝時に販売会の機会をいただき、九月二十四日・十月二十日で延べ十事業所が出店した。両日とも盛況で「次年度以降も継続したい」とのお話をいただいた。

このような出店を通じ、事業所のことを多くの新たな人に知っていただく機会となった。

清掃の仕事が続けて三十三年 小松智明さん

優秀勤労障害者 厚生労働大臣表彰 を受賞

小松智明さん（五十二）は、公益財団法人横浜市知的障害者育成会ワーキングセンター（本部・横浜）に雇用され、休みの日はテレビ浜市神奈川区に雇用されてゆったり好きなことをし、三十三年にわたり清掃の仕事を続けている。

小松さんは、昭和五十九年から約十五年間、横浜あゆみ荘館内及び周辺の清掃業務を行っていた。現在は日産スタジアム周辺での清掃業務が主な仕事だが、横浜あゆみ荘にも月一回清掃業務に入っている。

この度、小松さんは長年にわたる勤労の功績が認められ、今年九月に「平成三十年度優秀勤労障害者厚生労働大臣表彰」を受賞した。

小松さんは「受賞できて嬉しかった。仕事は大変な時もあるけど、暑い日も雨の日も毎日朝六時に起きて清掃の仕事を頑張っています」とにこやかな笑顔で話す。また、



小松さん（横浜あゆみ荘にて）

横浜市障害者後見的支援制度 アンケートを実施

平成二十二年十月より始まった後見的支援制度は、現在市内全区に展開。平成三十年六月現在では一四三一名の方が登録している。本年三月～四月に、利用いただいている本人・家族を対象にアンケートを実施し、より良い制度にむけたご意見や感想を伺った。(概要は表参照)

登録のきっかけ
今回のアンケートより、当制度を知ったきっかけの回答に「相談の機関」からの紹介を追加。本人・家族ともに約半数が「区役所」や「相談の機関」、「施設・作業所」からの紹介と回答した。また、家族の回答では各支援室で実施する説明会や、周知用のパンフレットやちらしが続く結果となった。

登録した理由として
「いろいろな相談がしたい」「将来への不安」「見守ってくれる人が欲しい」という回答が多く、特に家族からは「将来への不安」や「見守ってくれる人が欲しい」で半数を占めている。

利用した感想
本人・家族ともに約八割の方が「登録して良かった」と回答。理由を伺う設問では「いろいろな話を聞いてくれる」「いろいろな相談ができる」「見守ってくれる人ができた」という回答が多かった。また、自由記述欄の「安心感が増えた」「将来に向けた準備ができそう」「本人について理解が進んだ」という回答内容からは、本人・家族とスタッフの関係性が構築されて

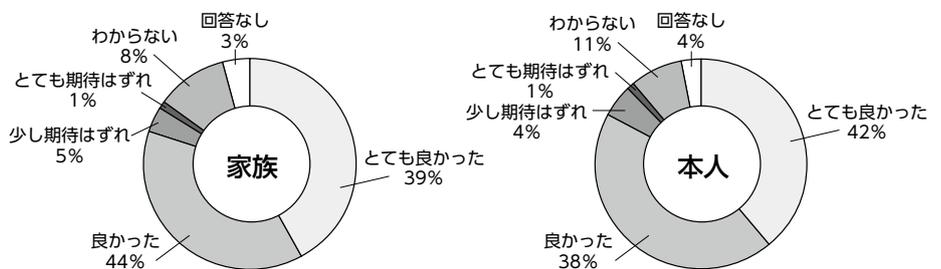
いる様子がうかがえた。一方で、「期待はずれ」「わからない」という回答も若干あり、「もっと具体的な支援をしてくれると思っただ」などのご意見もあった。制度の趣旨やできた背景などをお伝えしながら、より多くの方に「登録してよかった」と感じていただけるよう取り組んでいきたい。

これからに向けて
今回が三回目の実施となるアンケートだが、当制度について多くの貴重なご意見をいただいた。引き続き運営人と連携しながら、関係機関への周知や分かりやすい広報、また、あんしんキーパーをはじめ、地域での見守りが充実するよう今後とも邁進していきたい。

表：アンケート概要

実施主体	横浜市健康福祉局障害企画課 横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター		
実施期間	平成30年3月～4月末日		
対象	平成29年9月末日登録者 1,272人とその家族		
配布	本人	1,021	80.3%
	家族	961	75.6%
回答	本人	585	57.3%
	家族	606	63.1%

図：「後見的支援制度に登録して良かったですか？」への回答



十月にカフェを開所したレザンで働く山岸由那さん。「夢はウエイトレスとして働いて、ひとり暮らしをしたいです」と話す。人見知りだけれど大きな声で、お客さんに喜んでもらえるような接客をしたいという目標を持っている。

料理好きの彼女が家族のために作るのは、野菜たっぷりのお味噌汁。おかずを作るお母さんが使った野菜を使い、一緒に台所に立つ。「ひとり暮らしをするためには料理も出来ない。大好きなハンバーグを作れるようになりたい」とにっこり笑顔。夜の食器洗いも由那さんが担当する。レザンでも「とても器用で、

**YMCAワークサポート
センターレザン(戸塚区)
山岸 由那さん**

カフェで使用した食器もささっと洗ってくれます。野菜を切るのも上手です。「よ」とは所長の尾原さん。「ひとり暮らしをしたけれど、朝起きられるか心配です」と不安ものぞかせる由那さんが、取材を通して、そんな心配事も乗り越えられたと感じた。

着実に夢に近づくために毎日コツコツと頑張っている由那さん。お客さんと笑顔で話し、いきいきと働いている由那さんをこれからも応援したい。

※レザンとはフランス語で「ぶどう」の意味。より多くの方が「カフェレザン」とつながり、豊かな実を結ぶようにとの願いを込めて名付けられた。

笑顔で「お待たせいたしました！」



HEART MADE 通信

お寺から福祉の輪を広げよう

みなとみらいが一望できる丘の上、久保山霊堂前に浄土宗光明寺があります。

光明寺和香会館では、年に三回（春・秋のお彼岸、お盆）、ハートメイド商品を販売するバザーを開催しています。ご先祖の供養にお墓参りをされた方々が、この会館に立ち寄り、商品を購入していきます。



商品を選ぶお客様

きっかけは、ハートメイド事業が始まって

間もないころ、販路拡大に苦労していることを知った館長の白幡さんが、「お寺にきてくれる人を通して、多くの人に作業所の商品を知ってもらえれば」と、場所の提供・販売協力してくださる事になりました。



一番人気はクッキー

もう、二十年近く続いているバザー。始めは年一回でしたが、評判がよく、お寺の行事に合わせて年三回に増えました。

毎回楽しみにしてい

る方も多く、お気に入りの商品がないと「今回は売ってないのね」とがっかりされたり、

新商品を購入した常連さんからは「もうちょっと工夫が必要ね」など、いろいろご意見をいただくことも。これからも、地域とのつながりを大切に、「光明寺のハートメイドバザー」を続けていきたいと思えます。

「光明寺和香会館」
横浜市南区庚台六十六
☎045(252)6520
《お問い合わせ》
障害者支援センター
ハートメイド担当
☎045(681)1131

あゆみ荘 だより

◆横浜あゆみ荘の 災害時の役割について

大規模な災害発生時の横浜あゆみ荘の役割について、質問を受けることがありますので、紙面でお答えしま

す。

横浜あゆみ荘は、大規模な災害発生時について横浜市と協定を結んでいます。協定では、横浜市防災計画に基づいて、他都市の応援職員等が市内での効率的な応援活動を行うための「他都市応援職員等の宿泊施設」として規定されています。

横浜市防災計画で、「他都市応援職員等の宿泊施設」と規定されているのは、横浜あゆみ荘の他に五施設となっています（平成三十年十月一日時点）。いずれも宿泊を業務としている施設です。

横浜あゆみ荘の大規模災害時の役割に、ご理解いただきますようお願いいたします。

◆レストラン厨房等の 改修に伴う業務の一部 休止について

横浜あゆみ荘は、平成三十一年度にレストラン厨房等の改修工事を予定しています。工

事期間中は、お食事の提供ができないため、業務の一部を休止させていただきます。日頃、ご利用の皆様には大変ご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【工事内容】

レストラン厨房・エレベーター・排水管の改修等

【工期】

平成三十一年九月～平成三十二年一月末（予定）

【工事期間中のご利用について】

- (一) 休止する業務について
- レストラン営業並びに食事の提供を伴う宿泊及び休憩
- (二) ご提供可能なサービス及び施設利用について

ア 食事の提供を伴わない宿泊及び休憩

※1 浴室は通常どおりご利用いただけます。イ 児童遊戯室、研修

室、機能回復訓練室

※2 エレベーター工事期間は、エレベーターの使用ができません。

お問い合わせは、
横浜あゆみ荘まで

☎045(941)8383

支援センターだより

障害者支援センター

平成三十一年

感謝の集いのご案内

日頃から、障害者団体に対しご協力・ご支援いただいている方々への感謝と交流の場として「感謝の集い」を開催します。

ご協力いただきました方々への感謝状贈呈式典のほか、団体のアトラクションなど、楽しい催しもあります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

【日時】平成三十一年

二月二日(土)午前十一時三十分から

【会場】横浜ラポール・ラポールシアター他

【会費】三千元